

報 告

近畿病院図書室協議会 第140回研修会 参加記

中川かおり

近畿病院図書室協議 総会・研修会に参加させていただいたのは今回で2回目となりました。毎回とても参考になる事例報告ばかりで、皆さまの図書館業務への情熱のようなものがひしひしと伝わってきます。報告を聞くたび、日々の自分の仕事具合が恥ずかしくなるほど、皆さまいろいろと熱心に取り組まれており、自分はまだまだだと実感します。

中でも、湘南藤沢徳洲会病院の伊藤様は、図書室引っ越しのその後を報告されており、今の私にとって非常に耳の痛いことであり、逃れられない現実を突きつけられたような感じがしました。というのも、当院は2018年秋に新病院の建設が完了する予定であり、と同時に図書室も引っ越しをしないとイケないのですが、その際に図書管理システムの導入もする予定でありながら、未だそこまで手が回っておらず、宙ぶらりんの状態なのです。

伊藤さんの報告を聞き、導入するのなら「早めの準備」「この時期までに導入したい、という明確な理由の説明」が重要だと思いました。また、「今まで利用の無かった資料が利用されるよ

うになった」「検索機能がアップしたことで、自ら資料を探してもらえる」などのメリットは、図書室にとっても利用者にとっても非常に大切なことで、一刻も早くシステムの検討を進めないといけないなと思いました。

他にも、藍野大学中央図書館の増田様のKINTOREの構築などについてのお話や、市長浜病院の岸田様の図書業務の取り組み紹介、神戸労災病院の田中様の図書室での業務上の工夫のご紹介があり、新しい物を導入するということの大変さ、日々の業務の中でいかに効率よく業務をこなすか、利用者にとって利用しやすい図書室とは何か、を考えておられる事が皆さまに共通しており、私も新病院図書室関連の業務と通常業務を行うにあたっての課題だと改めて思いました。

こうした司書仲間のお話を聞くことで、日々ひとりで行っている業務に対してのモチベーションが上がっていきます。今後も、自分も皆さまと同じ図書館員であることに責任を持ち、業務に取り組んでいこうと改めて思いました。